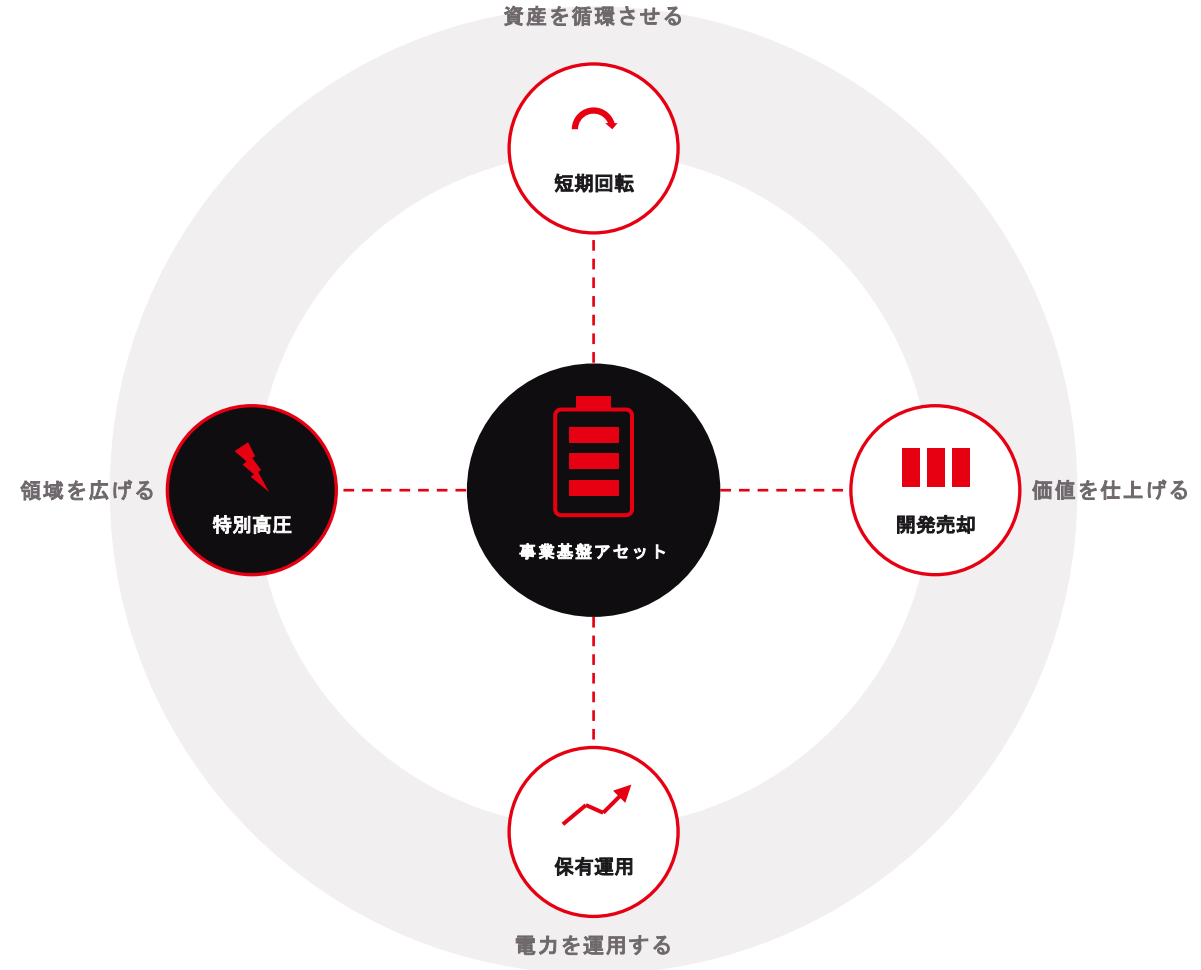


蓄電池が拓く、 電力の未来へ。

系統用蓄電池の **仕入・販売・完成売却・保有運用**、
そして、「特別高圧」蓄電池プラント事業へ。



01 市場環境

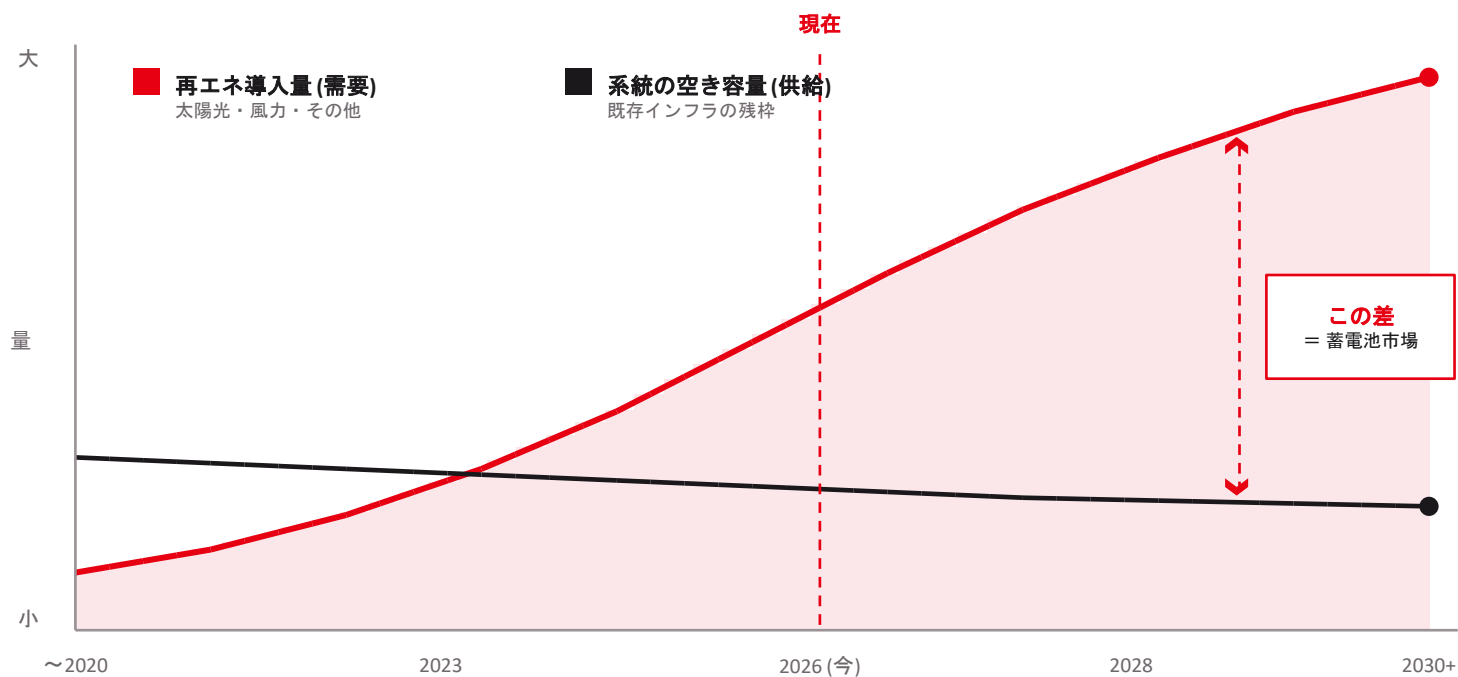
なぜ、今、蓄電池なのか。

再エネは増える一方、系統の空きは増えない。
この **開き続ける需給ギャップ**こそ、蓄電池ビジネスの構造的な追い風。

拡大する需給ギャップ

再エネ導入量 vs 系統の空き容量

両者の差 = 蓄電池が埋めるべき市場。時間とともに拡大していく。



結論

「土地 × 系統連系接続権 × 許認可」
を **先に確保**することが、事業の土台になる。

3つの構造要因

なぜギャップは 広がり続けるのか

01 再エネの拡大は止まらない
政策・脱炭素・コスト低下がドライバー



02 出力変動 → 調整力が必須に
需要も供給も常に変動。両者のズレを蓄電池が埋める



03 系統枠 (ID) は希少化
新規取得のハードルが高く、確保の重要性が増している

既存の占有

残枠

蓄電池用地の確保から、3つの出口。

「土地×系統連系接続権×許認可」を確保し、3つの収益モデルへ分岐させる。

入口戦略

土地

×

系統連系接続権 (ID)

×

許認可

の3点セットで確保

分岐

出口A・短期

土地&ID 売却

早い段階で仕入れ、権利関係を整理し、開発事業者へ売却
早いサイクルで、次の案件へ再投資が可能

出口B・中期

蓄電所完成後の売却

建設工事を経て「すぐ運転できる状態」で引渡し
完成済み案件として市場で高く評価される

出口C・長期

保有&運用

需給調整市場、卸電力 (JEPX) など3つの電力市場で運用
運用は専門事業者へ委託し、長期の安定収益

事業拡張

特別高圧 蓄電池プラント

諾亜建設と業務提携

2026年7月3日 開示

STEP 1 アドバイザリー (成功報酬)

案件と開発事業者・投資家を紐づけ

STEP 2 共同開発・共同保有

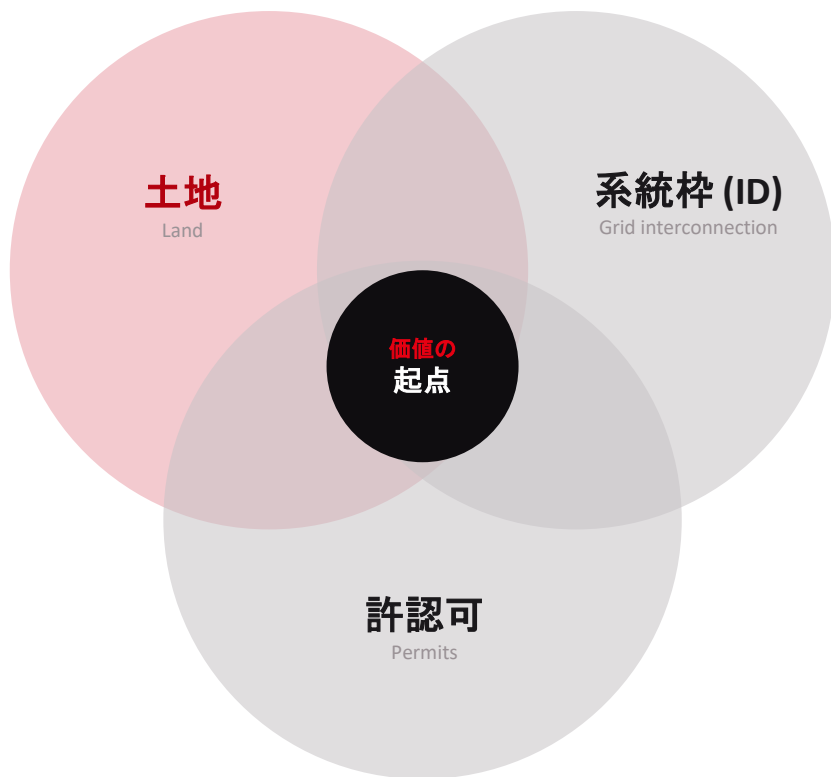
中長期に段階的に検討

部材調達サポート

Pylon Technologies Japan
との連携も活用可能

すべての起点は「入口」にある。

土地・系統枠・許認可を一体で確保できるかが、参入障壁であり、収益の源泉。



なぜ資産になるのか

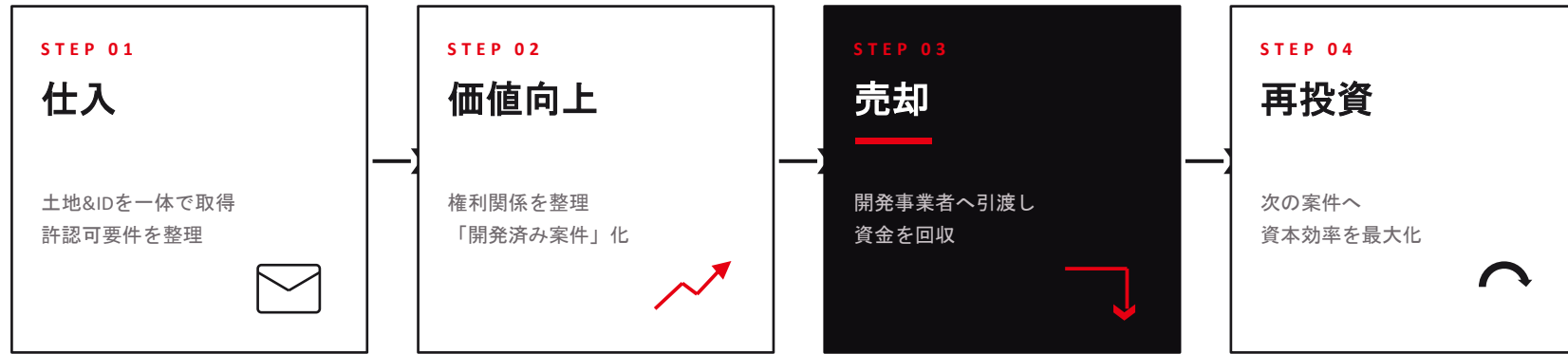
「3点セット」だから、
資産として値がつく。

- 1 単なる土地・情報の段階**
単体では流動性・価格ともに限定的。
- 2 系統連系接続権と許認可を一体化**
開発事業者が「そのまま使える資産」に変わる。
- 3 市場評価付きの「開発済み案件」**
取引可能な資産として、市場で評価される。

※ 系統連系接続権 (ID) = 電力系統への接続枠。本資料では「系統枠」とも表記。空気が少なく、新規取得のハードルが高い希少資産。

短期回転モデル – 土地&ID 売却

仕入 → 価値向上 → 売却 → 再投資。約6ヶ月～1年で資産を循環させるモデル。



キャッシュを次案件へ再投入して回転させる

資本の回転

同じ元手が、
年に **1～2回** 動く。



1件を長期保有せず、整理後に素早く売却して次へ。
一定の予算で **より多くの案件** を手掛けることが可能。

実績

進行中の案件：合計 3件

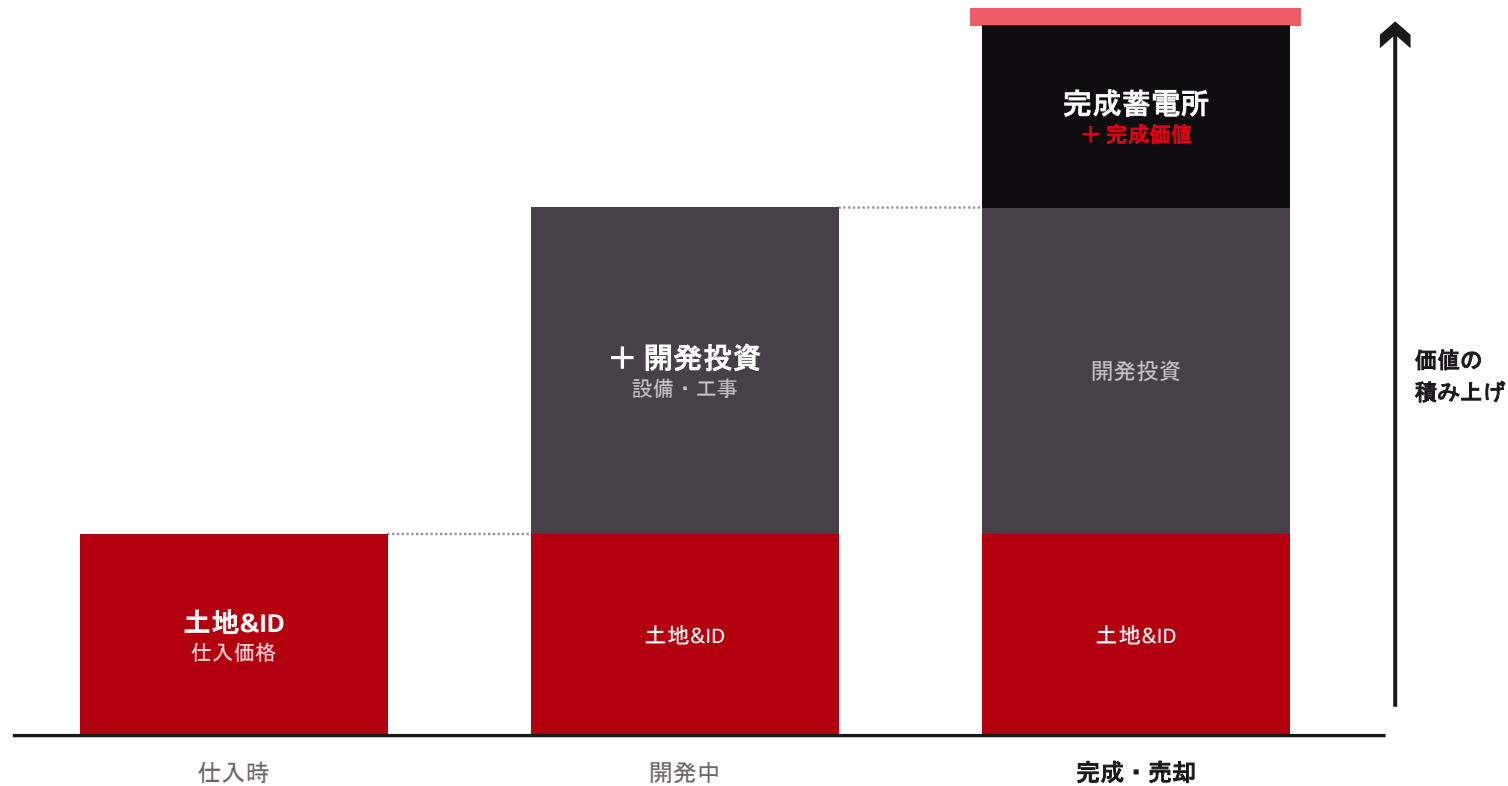


※ 将来の見通しは現時点の計画・想定に基づくものであり、実際の結果は諸要因により異なる可能性があります。

開発モデル – 完成蓄電所 売却

設備・工事の価値を積み上げ、「すぐ運転できる完成蓄電所」として引き渡す。

価値
(¥)



なぜ完成蓄電所が選ばれるのか

「すぐ運転できる」ことが、
買い手にとっての価値になる。

- 1 工期待ちなし。**
買い手は即日市場運用に入れる。
- 2 工事・調達リスクなし。**
設備完工の実績が担保となる。
- 3 認可・接続が確定済。**
買収後の不確実性が小さい。

短期回転モデルより一段深く踏み込み、
1件あたりの付加価値を高める中期(1~2年程度)モデル。

ストック型モデル – 保有 & 運用

保有した蓄電所を **1日の中で何度も充放電**し、3つの電力市場で運用する。長期安定型のモデル。

1号基 | 稼働状況

鳥取県 境港市

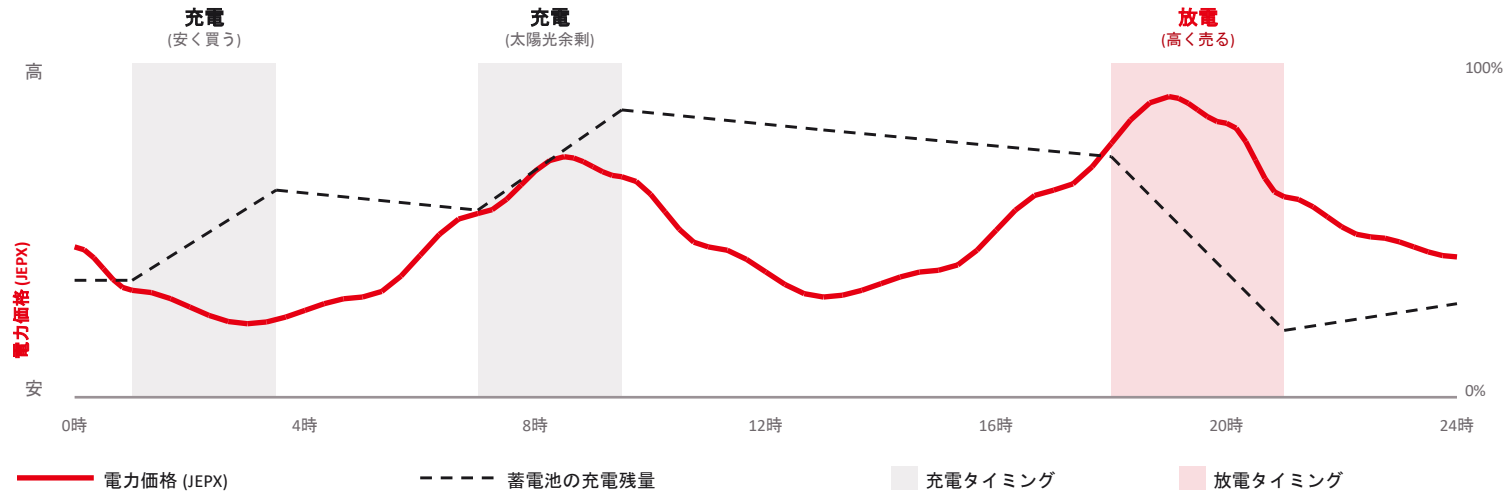
運用開始 **2026年7月4日**

状態 **完工済・市場運用中**

売上寄与(見込) **FY27.6期 約2.8億円**

収益の仕組み | ある1日の値動き

安い時に貯めて、必要な時に届ける — を、1日に何度も。



2号基 複数案件を精査中 (ファイナンス面含む)

3つの収益源

同じ1台の蓄電池から、3種類の収益を同時に取る。

A JEPX (卸電力市場)

安い時間に充電し、高い時間に放電。**需給の平準化への貢献**が対価になる。

B 需給調整市場 (中心となる市場)

システムの周波数維持に必要な調整力を市場に提供。**応答の早さ**が対価になる。

C 容量市場

「いつでも出せる能力」に支払われる長期対価。**安定した対価**が得られる。

固定的な対価 (kW対価)

※ 上図の1日パターンはイメージ。実運用は専門アグリゲーターが最適化。当初4月予定→高圧受電設備の品薄で約3ヶ月後ろ倒し/需給調整市場の上限引下げを考慮し保守的に算出。

特別高圧蓄電池プラント事業へ。

諾亜建設との提携で、より **大規模な領域** へ拡張する。

規模の比較

なぜ「特別高圧」を狙うのか。

案件1件あたりの規模が大きく、投資家ニーズも桁違い。単独では難しい領域に、提携で挑む。

これまで

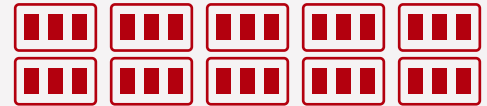
高圧 (これまでの Birdman)



電圧クラス	～数千V
案件規模	小～中
1件の投資額	数億円～

これから (提携後)

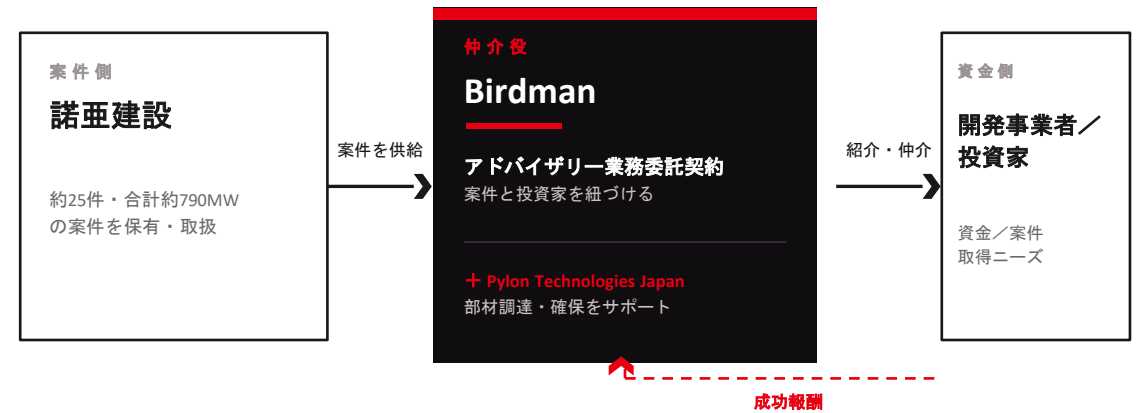
特別高圧 (諾亜建設と共に)



電圧クラス	2万V以上
案件規模	大～超大規模
1件の投資額	数十億～数百億円

提携の仕組み

Birdmanが「案件」と「投資家」を繋ぐ。



STEP 1 ・ 先行して開始

代理店 (アドバイザー) 業務

案件と投資家を結びつけ、**初期投資を抑えた支援業務**として、早期の事業貢献を企図。

投下資本 わずか	キャッシュ回収 早い	収益形態 成功報酬
--------------------	----------------------	---------------------

STEP 2 ・ 中長期

共同開発／共同保有への参画

共同事業者として共同開発・共同保有を中長期的に目指す。
※ 事業性評価・資金調達状況等に応じて段階的に検討 (現時点で決定した事実はありません)。

投下資本 段階的に拡大	案件規模 大規模化
-----------------------	---------------------

※ 電圧クラス・投資額は業界一般の相場感を示す目安。特別高圧=発電・大口需要家向けの高電圧領域。諾亜建設社の保有・取扱案件数等は2026年7月3日開示時点 (うち特別高圧級 約21件)。

Birdmanの強み、3つ。

「入口の希少性」「収益の両輪」「拡張の余地」—この重ね合わせが競争優位。

01



参入障壁の高い 入口を確保

「土地×系統連系接続権×許認可」を一体で押さえる。
希少資産を握ることが、以降すべての収益モデルの起点になる。

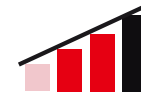
02



回転型×ストック型 の両輪

売却で資本を回し、保有・運用で長期収益を積む。両輪
でキャッシュフローと利益構造を安定化させる。

03

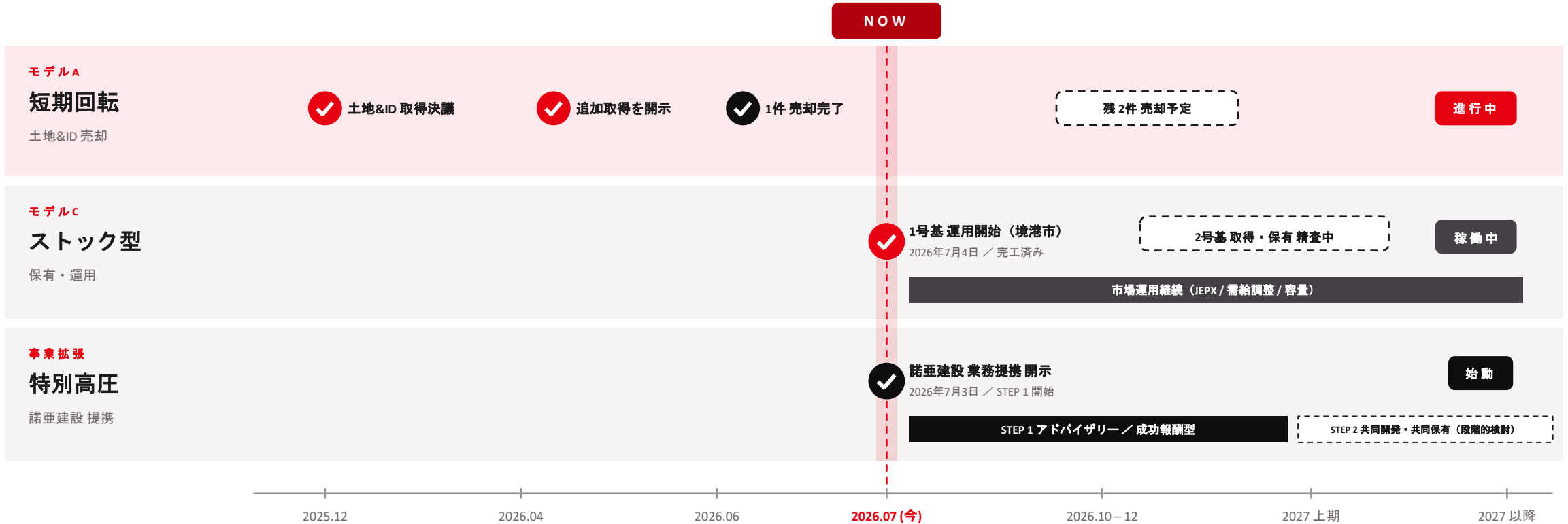


大規模案件への 拡張余地

諾垂建設との提携で特別高圧領域へ。アドバイザーから
共同保有まで、案件規模を段階的に拡張していく。

現在地と、今後の注目ポイント。

何が動いているか、次に何が起こるか。ロードマップで整理する。



注目ポイント・01

残2件の売却

今期第2四半期（2026年10～12月）に売却を予定しております。

※ 将来の見通しは現時点の計画・想定に基づくものであり、実際の結果はさまざまな要因により異なる可能性があります。詳細は適時開示資料をご参照ください。

注目ポイント・02

2号基の取得検討

ファイナンス面含め複数案件を精査中。決定次第、速やかに開示いたします。

注目ポイント・03

特別高圧STEP 2（中長期）

段階的に検討。決定次第、速やかに開示いたします。